姉妹島カウアイ島へ親善訪問　両島の絆深める

昭和38年から姉妹島交流を続けているハワイ州カウアイ島に、10月5日から19名が親善訪問を行いました。

一行は、ベルナード・ガバリオ、カウアイ郡長等を表敬訪問し、お互いの近況報告等で友好を深めました。

カウアイ日本文化祭では、平和を祈念する「折り鶴の祭典」に参加するとともに、茶道、詩吟、大島音頭を披露し、周防大島ブースでは日本の玩具を使った交流等を行い祭りを盛り上げました。

なお、前夜祭にてサタデーフラ10周年を記念し祝賀盾を受けましたので、10月26日、大島庁舎応接室にて、実施母体である一般社団法人周防大島観光協会へ伝達を行いました。

㊨折り鶴を手にするガバリオ市長（左）と椎木町長。㊧友好親善訪問団の皆さん。㊦サタフラの祝賀盾が椎木町長から周防大島観光協会の山崎浩一会長（前列中）に手渡されました。

里山資本主義で未来を拓く

10月21日、橘総合センターにおいて「里山資本主義実践者交流会」が行われました。これは、地域活性化などを目指し、里山資本主義コンソーシアムの主催（町など後援、周防大島高校の協力）で行われたもので、町内外から２００人以上の人が訪れました。

はじめに、周防大島高校生が地域との連携や地域の魅力を発信する取組として、「きれいな海岸フォトコンテスト」や不要になった子供服の回収「服の力プロジェクト」での海外支援、ハワイ文化の学習や商品開発などを紹介されました。

続いて「里山資本主義」提唱者の一人である㈱日本総合研究所主任研究員 藻谷浩介さんが基調講演され、里山資本主義について「お金がないと何も手に入らないマネー資本主義ではなく、経済が回らなくなっても何かを作っていれば水や食料などが手に入る、支えあえる状況」「次の代の人も楽しく暮らしていけるように考えること」などと説明。各地の事例の紹介や、都市部と周防大島町の人口動態を比較し「ここがすばらしい場所だということを理解して」と呼びかけました。

この後行われたパネルディスカッションでは、地域の魅力を次の世代に伝えることや、地域資源を活かした持続可能な取組などについて意見が交わされました。

㊨「地の利を活かしてすばらしい人間関係を作って」と藻谷さん。㊥数々の取組を紹介した周防大島高の生徒の皆さん。㊧周防大島高校の生徒会長 西川唯さんも参加したパネルディスカッション。周防大島の魅力や将来像などについて語り合いました。

【Ｐ６ちょび塩クイズ答え：２.０g未満】
酢の酸味や香辛料を活用し、うす味でもおいしく食べられる工夫をしています。